



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」
Ver. 2-033号（通巻264号）

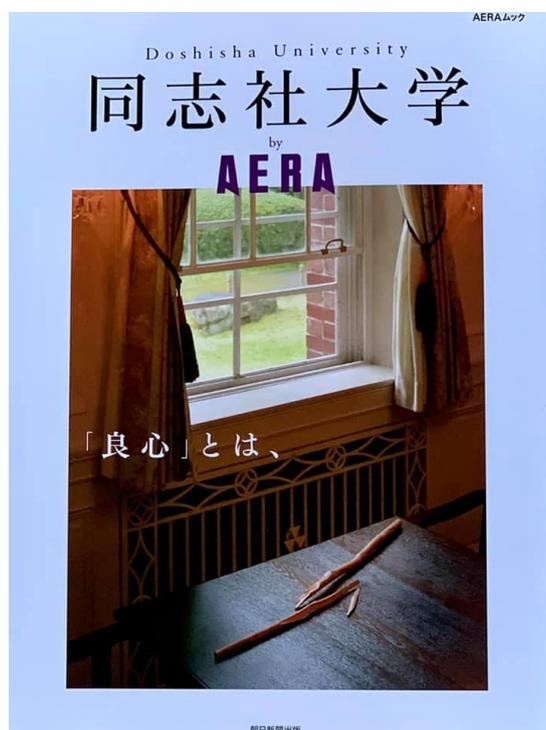
『同志社大学 by AERA 「良心」とは、』のお勧め

— 特徴と要約 —

（発行：朝日新聞出版 ISBN978-4-02-279228-0）



『同志社大学 by AERA』のお勧め — 特徴と要約 —



「同志社ファン・レポート」の目的は、OBOGの方々に今以上に母校を好きになり、誇りに思っただけでなく、戴くことにあります。

今回、発売されました 『同志社大学 by AERA』の内容は「同志社ファン・レポート」が狙うものと同じことが期待できると思いました。

勿論、『同志社大学 by AERA』は、朝日新聞の AERA が取材、編集していますので情報の量と質に共に大きな差があり、優れたものです。

この優れた『同志社大学 by AERA』をぜひ、多くの OBOG、また同志社の関係者に読んでいただきたいと同志社ファンを増やす会の主幹として強く思いました。

そこで今号の「同志社ファン・レポート」で『同志社大学 by AERA』をご紹介しようと考えました。紹介は、『同志社大学 by AERA』という本を読む気になっていただくためにこの本の特徴と主な項目については内容がのぞき見できよう簡単な要約を添えてみました。

本誌が発行されることを知ったのは、「VISION 2025」の「6.ブランド戦略の展開」にありました『同志社大学 by AERA』の発売予告記事です。

7月26日に Amazon から入手し、今日までの限られた時間に力のない小生が編集したものですので、捉え方の違いや誤字脱字もあると思いますのでご指摘いただければ幸いです。

実は、今日までに facebook に表紙の写真と目次をアップしました。

するとリーチが数日で 3500 を越える凄いい反応でした。

みなさんも友人、知人にお伝えいただき、母校・同志社大学のブランドイメージのアップにつながれば、望外の喜びです。

* * * *

特徴 1. 本誌は「by AERA」であること。

この本は単なる同志社大学の PR 本ではない。同志社が「朝日新聞 AERA」に取材・編集を依頼し、「客観性」を付与するという方針で広告もない。

「by AERA」のメリットは、「朝日新聞 AERA」の幅広いネットワークから人選し、記事が出来る。また、経済人の記事の場合、(p.42) 誰を選ぶかは他校でも難問だと聞くが、学校は「AERA に依頼している」として自薦他薦からの圧力を回避できるでしょう。この他の「by AERA」のメリットでは順次述べる。

特徴 2. 表現が新鮮である

今までに無い表現が随所に見られる。それは単に記事が新しいからではない。今までとは異なる先輩に語らせるという編集からであろう。例えば、アーモスト大学での新島襄について (p.18) アーモスト大学のサミエル・モース教授に語らせている。また、在校生も随所に登場させているので若人の視点が理解できる。特筆すべきは、佐藤優の「私立」「キリスト教主義」の解説。合点がいった。(p.28)

特徴 3. 初心者からベテランまで読める

用語解説 (p.22) や年表 (p.23) 校名の由来 (p.101) も簡単ながらある。また、同志社小学校の谷川俊太郎作詞の歌詞の一部が一人歩きしているが全文 (p.26) の掲載が嬉しい。

* <その頁にある小学一年生の授業の写真が同志社らしさを感じた>

一方、<同志社通>でも知らないと思われるのが「新島塾」の内容 (p.27)。そして、「文理融合で取り組む大学院構想」(p.92)。それ以外の記事も目新しいものが目立つ。生瀬勝久氏が訪ねた「喜劇研」の記事と表現は最たるモノで私にとっては異次元であった。(pp.82-85)

特徴 4. 「自由」の意味と表現の工夫

表記はこの本の構想を知ったときから気になっていたことである。下手するとマイナスのイメージになりかねないからである。実はこの本の多くの記事に「自由」が出てくる。しかし、秀逸は三人の現役マスコミ界のトップ・河内一友 毎日放送会長、・山田厚史ジャーナリスト、・中部嘉人文藝春秋社長による鼎談である。そして、「同志社が育む自由と反骨の精神がメディアを支える」(pp.64-68) と纏めている。更に「新島襄も神格化しない自由にもものが言えるのが同志社」(p.66) と踏み込んだためにドキッとした。



特徴 5. 昭和期の同志社について書かれている

今まで触れられることの少なかった昭和期の同志社について昭和史の研究者でもある作家の保阪正康氏が「なぜ、同志社から軍人が出なかったのか」「新島襄の早世の意味」「200年の大計の意味」など興味深い話を織り交ぜて語っている。最後にご自分の生き方についても披露されている。(p.28)

特徴 6. オリンピックで輝いた同志社人を纏めている

過去のオリンピックに母校同志社の選手はどれほどの活躍してきたのか、話題にしたいがまとまった情報がない。該当の8名について実績を紹介している。(pp.54-55)

* * * *

以下は各項目の要約である。必ず本文をご確認いただきたい。

- ・志はいかにして生まれたか ー同志社の源流を探るー (pp. 14-21)

これは読み慣れた話だけではない。同志社大学からアーモスト大学に留学している二人の学生から話を聞きながら、「源流」を丁寧に説いていく。「新島スピリット」についてアーモストの地で起業している商学部卒の語りで説明している。

- ・新島襄がめざした教育 (pp. 24-26)

新島襄が養成しようとしたのは「一国の良心」とも言うべき人であることを1888年に全国の主要な新聞雑誌に発表している。そのことは、その翌年に学生の横田安止への手紙でも確認できる。新島襄教育の中心はいつも「良心」であった。同志社小学校の校歌にもその意味が含まれている。学生の進路については制限せず、角があっても気骨があっても良いとしている。教師として生徒の扱い方について遺言に遺している。

- ・佐藤優が語る「大学本来の姿」(pp. 27-31)

語っていることは「新島襄があくまでも「私立」に拘った意味」「なぜ、教育の中心にキリスト教主義を置いたのか」「そもそもキリスト教主義とはどのよ

うなものか」「新島襄はどのような大学にしようと考えていたのか」等など。いずれも同志社の根底にある価値観である。同志社人としては必須の内容である。「新島塾」についても解説されている。

従って、ここは要約を敢えて避けた。原文を行間まで熟読いただきたい。

・同志社と経済 (pp. 42-47)

「経済を牽引する同志社人たち」と題して「良心に則った企業経営とは」をつぎの4名から話を聞いている。経営の要諦のどこかに同志社があることが確認される。

・井上礼之氏 [ダイキン工業株式会社取締役会長兼

グローバルグループ代表執行役員]

・山口悟郎氏 [京セラ株式会社会長]

・宮坂 学氏 [元ヤフー株式会社会長]

・西井孝明氏 [味の素株式会社社長]

これ以外の先輩については、「同志社経済編年史」の中で深井英五を筆頭に、9名を採り上げ、業績のポイントが記されている。

・同志社とスポーツ (pp. 48-55)

本誌で紹介しづらいのは部門が多いケースだ。他とのバランスで4頁程度に収めなければならないからだ。スポーツは部門が多く収まらない。そこでAERAは工夫したようだ。p.11に主要クラブの選手を集めて撮影している。現役ではフィギュアスケートの若手ホープ友野一希に絞り、先輩では「私たち、花の91年組!」として、好記録を出した早狩実紀 [陸上競技中長距離選手]と奥野史子 [元アーティスティックスイミング選手]の対談とした。この二人が同志社大学から得たものは奥が深い。

・同志社と理系の研究者 (pp. 56-59)

同志社大学の理系はp.102の組織図を見ると4つの学部がある。理工学部は10の学科もあるがそれらは比較・選別できるものではない。そこで3人の同志社大学出身の研究者を選んで紹介している。

飛龍志津子生命医科学部教授のコウモリの研究は既に「同志社ファン・レポート」で採り上げたが、研究のアプローチが面白く、研究内容も理解しやすい。高橋和利研究員は、ノーベル賞受賞者の山中伸弥京都大学教授の一番弟子。今

あるのは同志社大学の恩師のお陰だと、強い感謝の気持ちを持っている。吉川治周准教授の専門は流体力学。現在、フランスで研究を行っており、国際的な共同研究にも取り組んでいる。

先輩については「科学編年史」(pp.58-59)で4名を紹介している。その中で、特許件数世界一でギネスブックに登録されている山崎舜平氏(同志社大学名誉文化博士)がおられることに驚いた。

・同志社と法学の関わり (pp. 60-63)

ここでは「リーガルマインドは良心に通じる」と「同志社だから学べる法学がある」と同志社の独自路線を紹介している。その一つは、寒梅館に設けられた「京都国際調停センター」である。そこに同志社大学法学部が受け継いできた「人物本位」の思想がある。ともすれば司法試験の合格者数に関心がいくが、この思想に納得、共感した。(pp.60-62)

もう一つの同志社大学法学部の特徴は、憲法学者の田畑忍元教授とその教え子たちが「権力に阿らず、信念を貫き通した」こと。p.63で確認されたい。因みに田畑忍氏は敬虔なクリスチャンであった。

・同志社と一神教 (pp. 67-79)

学内にある一神教学際研究センターの中では、ニュートラルのように対話や研究が出来ることが特徴である。そのため「人間の尊厳を侵さない範囲で和議を結べる。その糸口があるとすれば、世界中で同志社だけである。そのこともあって、かつて同志社大学でアフガニスタンの和平会議を開くことが出来た。政権側とタリバンと中間派が揃って開かれた。この会議の開催が可能になったのは同志社大学が「私学」であることと同志社のチャペルに十字架がないことである。

小原克博[神学部教授]と内藤正典[大学院グローバル・スタディーズ研究科教授]は同志社の特徴や新島襄について宗教人としての見解を大いに語られた。(p.79)

・生瀬勝久氏が母校「喜劇研」の訪問 (pp.82-85)

圧倒的な演技力と卓越したコメディアンセンスで大活躍している彼が母校のお笑いサークル「喜劇研究会(メンバー約90名)」を訪ねて人生に効く「笑いのハウツー」などを伝授した。

「人が笑う仕組みを理解して、自分の笑いを作っていこう」「決めたらこれ以上はできないというところまでやってみること」「好きなことをずーと考えてやっていると人生は変わる」と言われる。聞いていた後輩たちは「テレビで見るポップな印象と違い、なんでも真剣に取り組んで次につなげる姿勢に考えさせられ心を揺さぶられた」と話していた。

・【学長対談】 これからの大学 (pp. 86-90)

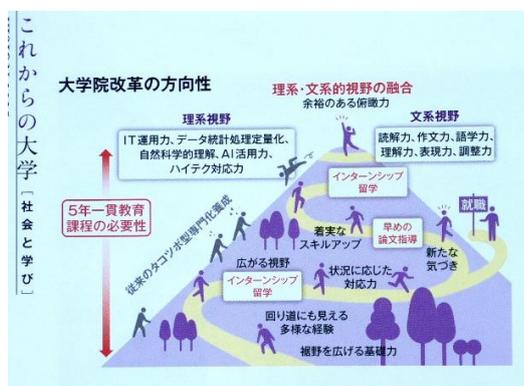


「同志社」という未完の精神などを松岡敬学長は宇垣美里〔フリーアナウンサー〕との対談で語った。冊子【VISION 2025】とは、違った印象であった。ぜひ、原文でご確認下さい。

・文理融合で取り組もうとしている大学院構想 (pp. 92-93)

その狙いは、近未来社会 Society5.0 時代の設計者の養成にある。その設計者に求められるものは AI やデータサイエンスの技術に精通し、かつ人と人をつなぐ新しいサービスが考案でき、現状の「分断」を解消する能力である。と語るのは学長補佐でエネルギー科学を専門の理工学部後藤琢也教授。

最後に「何よりも育成したいのは<地の塩>として活躍できる人材です」と



結んだ。

・赤ちゃん学研究センター (pp. 27-31)

センターの狙いは「赤ちゃんを切り口にヒトの認知行動や社会性の発達メカニズムを明らかにすること」大切にしていることは「研究のための研究であってはならず、社会に還元するという理念」。そこで、小西行郎センター長が中心になり、地元木津川市と連携したり、子育てに悩む人にアドバイスをを行っている。

・EU キャンパス (pp.96-97)

2017年にドイツ、テュービンゲン大学に開設され、今年の4月、10名の学生が「EUキャンパス・プログラム」のために出発した。今後は教員交換やシンポジウムの開催、共通研究などが考えられている。

新島襄が異文化の中に身を置いたように、学生は自分のアイデンティティや人生の目標を見つけて、平和で公正な世界を築くために貢献する人になってほしい」とECキャンパス支援室長和田喜彦経済学部教授は語っている。

・宇宙生体医工学研究プロジェクト (pp.98-99)

聞き慣れないプロジェクトだが、これは平成30年に文科省から「私立大学研究ブランディング事業」に採択された新しい学問である。宇宙での健康問題は、高齢者に起こる現象によく似ている。宇宙では、それが短時間で変化が現れるが。

宇宙と医学という異分野の化学反応で $1+1=2$ を超える発見ができる。そこに異分野融合の視座がある。超高齢社会に新風が吹く日は近い」とのこと。

・真山仁氏の同志社での日々 ―そこに自由があった― (pp.106-109)

第3志望の同志社大学に入学したものの敗北感の呪いから逃れることの出来ない一回生の春を過ごしていた。とは言えその年、梅津寛教授の授業から大きな刺激を得た。それで「ニッポンの常識を打つ破るような小説を書こう」と心に期している。

ある日、中山みゆきの歌の歌詞の深さと鋭さにハッと、まるで神の啓示のような言葉から「同志社で誰も知る奴になってやる」と決めた。当時、同志社に

はテニスサークルが 50 以上あった。これを束ねる連盟を誕生させ、翌年には委員長に就任。学内トーナメントや他大学との対抗戦も実現させた。運営に企業の支援を求め、連携も積極的に行った。その経験から学んだのは、根回しの重要性和結果こそが力だということであった。学校は積極的に応援してくれないが兎に角、自由だった。

みなさんもやってみたいと思えるものに出会ったら、どんなことでも迷わずにチャレンジして欲しい。そのために汗をかき、失敗し、成功に涙しよう。このような経験の先に「何か」が待っている気がする。

■ 読み物

p.32 作家・藤野可織がてくてく歩く京都

p.69 新島八重 ! 皇室と会津をつないだ?

pp.70-73 同志社と伝統芸能 金剛流 ー幽玄が作り出す京の伝統文化



pp.74-75 葵祭・斎王代インタビュー

pp.80 同志社の日々 中村うさぎ

■ 学校紹介

p.100 本誌に掲載されている素晴らしい、貴重なグラビアの解説。

p.101 大学概要 pp.102-103 データで見る同志社大学

p.104 同志社校友会

以上、皆さんに『同志社大学 by AERA』を読んでいただこうと独断で言葉足りませんが、「特徴」「要約」などを添えた次第です。勘違いなどにつきまして、猛暑の中ですが、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2019. 8. 1 同志社ファンを増やす会・多田 直彦